

# 出家学道

## 一

— 慈円僧都の住坊・中門内外 —

平安時代の末期、平氏や源氏が実権を争う乱世に、親鸞聖人は京都にお生まれになりました。

### 【要旨】

親鸞聖人の出家前の俗姓は藤原氏で、藤原鎌足（鎌子）の流れを汲む日野家となり、父君は有範と申されます。

もし、朝廷にお仕えすることがあれば高位高官が約束されていたにもかかわらず、仏法宣布のご因縁により、出家なされました。

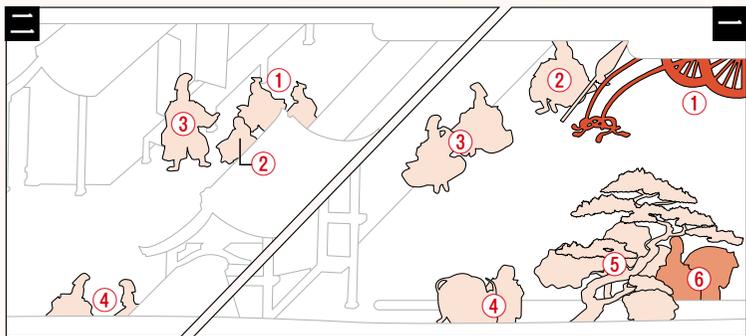
### 【原文】

それ聖人（親鸞）の俗姓は藤原氏、天児屋根尊二十一世の苗裔、大織冠 鎌子内大臣の玄孫、近衛大将右大臣 贈左大臣 従一位内磨公 後長岡大臣と号し、あるいは閑院大臣と号す。贈正一位太政大臣房前公孫、大納言式部卿真楯息なり 六代の後胤、弼宰相有国卿五代の孫、皇太后宮大進有範の子なり。

しかあれば朝廷に仕へて霜雪をも戴き、射山にわしりて榮華をもらくべかりし人なれども、興法の因うちにきざし、利生の縁ほかに催ししによりて、

### 【図解】

親鸞聖人入室後、中門を中心に、**一**門外には牛車や馬の世話をする供人が、**二**門内には近習や供人の様子が描かれている。



**一** 慈円僧都の住坊（白川坊）を牛車に乗り訪ねられた図

- ① 親鸞聖人ご乗車の牛車
- ② 警備や雑用を行う舎人
- ③ 供人
- ④ 牛車を曳いた牛と牛飼童
- ⑤ 牛繫ぎの松と（無常を表す、あるいは出家を祝福する春の）桜
- ⑥ 日野範綱卿乗馬の馬と従者

**二** 親鸞聖人が客殿に入られた後の供人の様子

- ① 範綱卿の家人
- ② 稚児
- ③ 慈円僧都の家人
- ④ 親鸞聖人近習

